

# 和地ひとみレポート No.152

平成 27 年度予算特別委員会にてちよこバスの運行経費の赤字の詳細を確認  
ただの赤字補てんで終わらせない工夫を考えては



## ■新たな進め方を試行した予算特別委員会

…前回のレポートで取り上げた平成 27 年度予算。この予算については 4 日間予算特別委員会で審議しました。現在、議会では、予算特別委員会、決算特別委員会の審議の進め方について、より議論が充実することと効率を高めるために様々な試行をしています。今回はその試行の 3 回目、今回の予算特別委員会の審議の方法は、議長を除いた議員が特別委員会の委員となること。さらに、質疑時間は一人 30 分をもとに会派ごとに制限時間を設け、答弁時間は計測せず質疑時間だけを計測するという方法で実施されました。(5 人の会派なら 30 分×5 人で持ち時間は 150 分。それを会派内の誰が使用するかについては制限なし=5 人会派の中の一人だけで 150 分使用することも可能。議長は委員に入らないため、議長のいる会派は所属人数から 1 名分を差し引く)

…各会派は、予算全体に対する総括質疑や歳入、歳出、特別会計に関する質疑を持ち時間内で実施。この試行をしてみた私の個人的な感想としては、持ち時間が制限されている中、漏れなく質疑することを考えると、質疑と関連性の薄い内容で時間が長くなることを抑制できた(=効率性の向上)と同時に、質疑についてはその内容をシャープに(時間的にも内容的にも)しなければならないという点で、この方法は今後の導入について検討の価値があると感じました。議会としては最終的な審議の方法については、現職議員の任期が終了するため、今期中では結論を出さず、来期の議会に引き継ぎをして検討してもらおうこととしました。以下は今回の方法で試行した各会派の質疑に使用した時間の結果です。

## ■各会派の質疑持ち時間と質疑に使用した時間

会派名	所属人数	最初の持ち時間	質疑に使用した時間
自由民主党+1	5人	150分	37分59秒
公明党	4人	120分	38分24秒
日本共産党	3人	90分	82分42秒
自民クラブ	3人	90分	1分51秒
民主党	2人	60分	14分20秒
やまとみどり	2人	60分	23分38秒
無所属：実川	1人	30分	19分33秒
無所属：和地	1人	30分	26分44秒

※公明党は議長を出しているため、実際の所属人数より 1 名分減。自民クラブは今回の特別委員会の委員長を出しているため、時間は 3 名分だが実際に質疑できる委員は 2 名。(委員長は特別委員会の議長的役割を行うため)

## ■ちよこバス運行事業の補助額の根拠

…さて、この予算特別委員会の中で、私は様々な事業費について質疑を行いました。その一つとして新たなルート(循環ルートと往復ルート)で運行を始めた「ちよこバスの運行事業補助金」の予算額 4200 万円の根拠について取上げました。今まで市が開催したちよこバス関連の説明会やタウンミーティングでは、参加した市民の方から「赤字にならないための乗車人数」などについての質問が出ていましたが、市からは明確な回答がなされていない状況で、なかなか運行状況の実態が見えていないと感じていました。しかし、予算に運行事業補助金の額を計上しているのですから、その数字に対しては何らかの根拠があるはず。今回の質疑では、その根拠について以下の答弁がなされました。

## ■経費=西武バスの見積もり=7,400万円

## ■運行収入=市が過去のデータから導き出したもの

循環ルートは平成18年の乗客数、年 196,000 人をベースとした。そこから、運賃改定により乗らなくなる人を 20%(39,200 人)とし、さらに、1 便減ったことによる影響(1,750 人)を減じると 155,050 人となる。そこから、新ルートへの切り替え時の落ち込みを 2%と試算し 3,100 人を引くと、151,950 人となる。往復ルートは、循環ルートのバス停勢圏(※1)と同じ乗車率と仮定し、年 49,600 人をベースとする。そこから、運賃改定により乗らなくなる人を 20%として 9,920 人控除すると 39,680 人となる。さらにそこから、新ルートへの切り替え時の落ち込み 2%(790 人)を引くと、38,890 人となる。

循環ルートと往復ルートの見積もり乗車数を合計すると 151,950 人+38,890 人=190,840 人となる。この人数が、現金 180 円(※2)で乗車したとみなし、消費税を差し引いた運行収入額は約 31,792,000 円となる。

## ■予算額については上記、経費と運行収入の差額。

運行収入 31,792,000 - 経費 74,000,000 = 42,208,000 円の赤字

※1:バス停勢圏

バス停を中心としてそのバス停を利用すると期待される需要が存在する範囲のこと。ちよこバスの場合は 200m で考えて計算したとのこと。

※2:ちよこバスは新ルートに変更の際に、IC カードの利用が可能になった。現金払いは 1 回 ¥180 だが、IC カードだと ¥175 となる。また、割安な回数券、小人、1 日乗車券などの運賃もあるが、計算は ¥180 でしたとのこと。(裏面に続く)

## ■何人乗れば？

…この市側の答弁では運行収入の端数などを少し下に丸めた数字で、実際の計算はもう少し複雑とのことですが、概要はつかめました。市の見積もり方法をそのまま活用し、赤字額＝補助金 4200 万円を 1 回の現金支払いの大人運賃 180 円で割返すと年間 233,333 人、1 日約 640 人の乗客数アップで赤字が解消されることとなります。この数字は、市の試算した乗客数の約 2 倍強。実際に、今の倍の人数の利用者になった場合は、また、違った問題が発生するかもしれませんが、乗客がまったくいない状態で運行されているような状況も見かける中、少しでも多くの方に利用してもらう工夫が引き続き必要だと思いました。

## ■ただの赤字補てんではない活用を

…今回の答弁を聞いて、当たり前のことですが、運行収入がアップすれば、補助金の額は減るということを確認したので、私は一つ市に提案をさせていただきました。提案内容は、運行収入には回数券や 1 日乗車券の売上も含まれることを考えた場合、単純に西武バスに赤字補てんで 4200 万円を支払わず、市が回数券や 1 日乗車券を購入する形で西武バスに支払い、回数券や 1 日乗車券を活用することを考えてはどうかということです。

…今の補助金という形では市には、しいては市民には何も残りません。しかし、回数券や 1 日乗車券を購入するという形で西武バスに支払えば、それらの券が手元に入ります。そしてそれを活用して、例えば、小学校や学童保育などに市から学習のために乗車券を交付すれば、子どもたちの「公共交通機関の乗車体験」「ちよこバスに乗って回って見て市全体を知る学習」などに活用することもできるはずで、また、「ちよこバスのある風景写真コンテスト」などを開催し、応募者には回数券を参加賞として交付する、ウォーキングなどの観光イベントに活用するなど、ちよこバスを利用した別の事業を立ち上げれば、ちよこバスの広報活動への活用も可能となります。

…私の提案に対しては、前向きな姿勢で市側も受け止めてくれました。私が何よりも懸念することは「現状を変えられないもの」として、疑問を持つ思考が停止すること。限られた財源を少しでも活用できないか、市民のために活かさないかという視点を常に持つことが、新たな発見や工夫を生むのです。私の提案が実現されるかどうかはわかりませんが、ちよこバスの補助金をただ「赤字だから仕方ない」というふうを受け止めない姿勢を市側が常に持っていれば、市民の信頼もより高まると感じます。他の事業に対してもそういう姿勢が市政運営ではとても重要だと私は思います。

## 国土交通省国土地理院が平成 26 年 10 月 1 日現在の国土の面積を全国都道府県市区町村別にとりまとめ 東大和市の面積が少し狭くなった？！

### ■0.12Km<sup>2</sup>減

…3月6日付で公表された「平成 26 年全国都道府県市区町村別面積調」の結果について、市から情報提供がありました。国土の面積の公表は、明治 15 年（1882）に太政官統計院によって初めて実施され、人口統計と並ぶ古い歴史を持っており、昭和 35 年（1960）からは国土地理院が、『全国都道府県市区町村別面積調』として毎年公表しています。この調査した面積値は、国勢調査報告における人口密度算出や地方交付税算定の基礎データなど、様々な分野で利用されているとのこと。…今回公表された、平成 26 年 10 月 1 日現在の東大和市の面積は以下の通りです。

■今回公表された新面積 13.42Km<sup>2</sup>  
■旧面積 13.54Km<sup>2</sup>  
よって、0.12Km<sup>2</sup>の減少となります。

ちなみに、平成 26 年の国土面積は 377,972.28k m<sup>2</sup>で、平成 25 年の 377,961.73k m<sup>2</sup>より 10.55 k m<sup>2</sup>減少しました。

### ■精度が上がった計測方法

…国土地理院によると、今回の調査から計測方法が変わり、精度が増したとのこと。平成 25 年までは、昭和 63 年に 2 万 5 千分 1 地形図から計測した面積を基に、各年に告示された埋め立て面積等を加算して求めていたとのことですが、この方法では、現在の技術よりも計測の誤差があることや、海岸線の自然変化等が十分反映できないといった課題があったとのこと。そのため、平成 26 年の面積から、最新のデジタル地図（電子国土基本図）により計測することに。それによって侵食や堆積など自然変化を反映した最新の海岸線のデータを用いることも可能になり、より現況に即した面積を計測することができるようになったとのことでした。…この計測方法の変更と計測の基礎となる地図の切り替えによって、平成 26 年の調査では東大和のみならず、多くの市区町村や都道府県においても面積が変わったとのこと。



市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102